

桃核祭祀は吉備邪馬台国の卑弥呼の鬼道か

楯築サロン代表 岡將男

1. 「岡山は今も昔もモモの国」桃核 9606 個出土

このフレーズは岡山県古代吉備文化財センターのホームページに、1998年に発掘された倉敷・上東遺跡の波止場状遺構から桃核(とうかく)9606個(他に古墳時代2個出土で合計9608個)が出土した事実を、17年遅れの2015年に発表したものである。岡山と言えば「桃太郎伝説」だし、岡山駅前広場の桃太郎像は岡山のシンボルではあるが、今までもう一つ「岡山のシンボルは桃太郎」とは言いきれていなかっただけに、大いに元気が出る話だ。

(写真1 上東遺跡桃核⇒)

吉備では弥生後期の各遺跡から1万3000個余りの核が出土しており、特に倉敷市の弥生後期最大の墳丘墓である楯築遺跡の南の上東遺跡では9606個もの桃核が出土していた。しかも壱岐の遺跡について国内二例目の波止場状遺跡からの出土であり、大量の土器や貨幣、卜骨なども同時に出土していた。2014年の全国邪馬台国連絡協議会の第一回全国大会では、奈良・纏向遺跡



出土の桃核を炭素14同位体分析して年代確定するべきだと決議されたが、全国的に知られていない上東遺跡桃核を知っていただくことが、邪馬台国問題に一石を投じることにもなるのではないかと。

私は卑弥呼の時代・吉備邪馬台国時代から、岡山・吉備の桃はこの地域の祭祀の象徴の1つであり、卑弥呼の宗女・臺與が奈良・纏向に桃核祭祀を導入したのだと考えたい。また今後桃太郎伝説もこうした背景を反映したものである可能性についても検討したい。

2. 奈良纏向の桃核 2765 個出土の波紋

2009年11月、奈良県の纏向遺跡で三世紀前半とされる居館の跡と思われる柱穴が発見され、2010年9月には東西に一直線に並ぶ4棟の建物の最大のD棟南側の土坑から桃核2765個が発見された。

東西に並ぶ建物は邪馬台国大和説の卑弥呼の宮殿ともされ、その建物のそばの土坑から祭祀用と思われるミニチュアS字甕約10点、多くの土器、獣骨、魚骨、木製品とともに桃核が出土したのだから、不老長寿を意味する桃を使った祭祀が、卑弥呼によってここでなされていたとの話が出てきた。

2010年9月18日の朝日新聞では、以下の様に報じている。

女王卑弥呼が治めた邪馬台国の有力候補地、奈良県桜井市の纏向遺跡(二世紀末～四世紀初め)で大型建物跡そばの穴から二千個を超す桃の種が出土した。市教委が十七日発表した。桃は古代「魔よけ」などに使われたとされ、市教委は、「祭祀に使った後に捨てた可能性がある」とみている

纏向遺跡からは、昨秋、三世紀前半では最大の建物跡(東西約12.4m、南北約19.2m)が見つかり、卑弥呼の宮殿とみる研究者もいる。市教委は七月から、建物跡を取り囲むとみられる柵列の延長を確認するために南側を調査。その結果、建物跡の南約5mで楕円形の穴(東西約2.2m、南北約4.3m、深さ80cm)

が見つかり、二千個以上の桃の種(直径約 2.5cm)が埋まっているのを確認した。

竹筴六点(直径 30~60cm)や木製の剣、故意に割られた土器片、漆塗りの弓、獣骨なども出土し、いずれも祭祀に関連するという。市教委は土器の穴からは、卑弥呼と同時代の三世紀中ごろのものともみている。桃の種は弥生や古墳時代の各地の遺跡で見つがっているが、一か所でこれほど大量に出るのは異例。

古代中国の道教の神仙思想では、桃は不老不死や魔よけの呪力があるとされた。三世紀の中国の史書「魏志倭人伝」は卑弥呼が倭国を鬼道(呪術)で支配したと記し、鬼道を道教とみる説もある。辰巳和弘・同志社大学教授(古代学)は「卑弥呼が竹筴に桃を積み上げて祭事を行っていたのではないか」と話す。(引用ここまで)

2011年10月26日放送のNHK「歴史秘話ヒストリア」では「女王さま振り向いて!」との題で放送され、桃核についてセンセーショナルに扱った。副題は「最新研究!邪馬台国卑弥呼のヒミツ」である。

桃核出土については発掘中の動画を公開し、発掘者が「もー、桃の種、笑うほど出てきますね」と言い、桃核2765個を青いビニールシートの上に並べた映像も出す。「いまだかつて日本の遺跡から発掘されたことのない、異様なほどの数にのぼりました」とのナレーションまで入る。桃核を土坑に捨てる映像では「episode1 卑弥呼はモモがお好き?女王が治めた国のヒミツ」とのテロップもはいる。12年前に上東遺跡でその4倍近くの桃核が出土した事実など、知らぬ存ぜぬで、卑弥呼が纏向にいた証拠として桃核が使われているのだ。「モモの種はほとんど未成熟、儀式に使われたと推測する」とのテロップも出る。

番組中で、当時考古学者の石野博信氏は「必ずしも収穫を祝うようなマツリとはどうも違うような感じはしますね」と述べ、考古学者の辰巳和弘氏は「そうなってくれば、モモを祀るマツリというのは中国でいう一種の仙薬、仙人になるための薬という意味合い」と述べている。次のナレーションでは「卑弥呼は大陸から桃の儀式を受け継ぎ、不老長寿や平和を祈ることで、民をまとめていたのかもしれない」と出る。

この時のビデオを私はきっちり録画していて、当時NHKの中国地区番組審議会委員として、毎月番組の批評をする機会があったので、

「吉備邪馬台国説を推進する我々としては、とんでもない番組だ。桃と言えば、桃太郎の岡山でしょ」と申し上げたら、参加者はみな大笑いになった。当時まだ私は上東遺跡桃核9608個の出土を知らなかったのだ。

この番組を見てびっくりしたのは、元岡山県農林部長の村上進通さんだ。桃を岡山特産品として販売にも努力してきた人だから、桃核が大量に出土していた事実を知っており、すぐに岡山県古代吉備文化センターに問い合わせた。桃核はその後分析されることもなく、コンテナに積まれたままだったと言う。村上氏は2015年6月に「吉備の国 桃 桃ものがたり断章」(一般社団法人岡山農山村地域研究所刊)にて上東遺跡の桃核大量出土について初めて本に書かれた。まさに岡山の桃が古代から現代まで受け継がれた、岡山の宝であることが書かれている。

3. 桃核とはどういうものか

ここからは岡山県古代吉備研究センターのホームページなどを参考にしながら、桃核出土を考えてみよう。

白桃は岡山の名物だが、宅急便などの無い時代、傷みやすいので東京に住む内田百閒は、毎年幼馴染の岡崎の真さんが送ってくれるのを楽しみにしていた。岡山の食用桃の本格的栽培は、明治8年(1875年)、中国から天津水蜜・上海水蜜を導入したことに始まり、明治32年(1899年)には岡山で白桃が発見され、さらに、昭和7年(1932年)に清水白桃が生まれた。

桃の実は傷みやすく、白桃などはちょっと触れるとすぐ痛む。果肉が残ることはまずない。一方の桃

核はとても硬くて残りやすい。各地の縄文時代以降の遺跡から出土するようだ。

日本最古の桃核出土遺跡 長崎県伊木力遺跡（縄文時代前期 約6,000年前）
 岡山県最古の桃核出土遺跡 津島岡大遺跡（縄文時代後期 約3,500年前）

ただ出土数量は十とか二十の単位ならあちこちで出ているようだが、全国的には岡山県ほど桃核が出土している例はないらしい。岡山県内では、22遺跡で13000個を超える桃核が出土。特に上東遺跡（倉敷市）、津島遺跡（岡山市北区）、百間川今谷遺跡（岡山市中区）などでは、弥生時代の溝や河道などから大量に出土している。岡山では桃核出土は当たり前でありすぎた故に、「全国どこでも同じように出土する」と思われていて、考古学者の間では注目されることがなかった。岡山県南の大弥生後期遺跡では、桃核祭祀は一般的に、水を祀るものとして行なわれていたのではないかと推測される。

遺跡名	出土総数	出土数（弥生時代～古墳時代）	
上東遺跡	9,608	9,608	波止場状遺構
津島遺跡	2,415	2,415	河道
百間川沢田遺跡	460	460	井戸 401 井戸 50
百間川米田遺跡	400	242	土坑 76 井戸 52 井戸 43
百間川今谷遺跡	384	384	溝 316 水田 63
鹿田遺跡	33	7以上	
百間川原尾島遺跡	22	22	
雄町遺跡	10	10	
南方遺跡	多数	多数	
纏向遺跡（奈良県）	土坑 2,765	弥生後期	
布留遺跡（奈良県）	流路上層 1,546	古墳後期	
南滋賀遺跡（滋賀県）	溝 520	古墳後期	
前田遺跡（島根県）	河道 408～	古墳後期？	

上東遺跡の桃核の事実は発掘調査報告書(2001年岡山県埋蔵文化財発掘調査報告書157下庄遺跡上東遺跡)では一切触れられておらず、NHKの番組放送後に考古学関係者の間でも話題になってようやく数量が確かめられたようだ。

2015年に岡山県立博物館で開催された「発掘された日本展」では、「地域展示特集1 邪馬台国と吉備」が生まれ、初めて上東遺跡の桃核が展示され、これが岡山における上東桃核の一般への初登場となった。(写真1)

桃核が全国3番目に多い津島遺跡には陸上競技場の建物に「遺跡&スポーツミュージアム」があり、ここで特殊な器台、特殊壺、赤彩盾、装飾版・ト骨とともに桃核が展示されている。

津島遺跡の桃核は倉敷考古館でも展示されている。倉敷考古館には楯築のすぐ南の女男岩遺跡(弥生墳丘墓)から出土した、特殊器台のような末広がり裾部を持つ胴体に家型に乗った「家型特殊器台」とでも呼ぶ唯一無二の土器が展示されている。この土器は非常に写実的にできていて、私は模型や土器で復元したところ、仮に軒下を2.4mとした場合は全高9.3mにも及ぶことがわかった。おそらくはこうした宮殿が楯築・上東周辺にあったのではないかと類推される。(写真2 復元宮殿模型、1/150)



こうした動きを受けて、地元山陽新聞では以下のコラムが出た。

評判は上々だったようだ。観光プロモーションなどのため台湾を訪れた岡山県訪問団が特産品をPRした。ちょうどシーズンのモモの試食に現地の人たちは「おいしい」を連発したという▼海外をも魅了する「モモの国・岡山」のルーツは古代までさかのぼるらしい。遺跡から種が出土するのだ。県古代吉備文化財センターによると、県内の弥生時代遺跡から計1万数千個が見つかっている。中でも倉敷市・上東（じょうとう）遺跡の9608個は、一つの遺跡からの出土数として全国でも群を抜く▼原産地・中国の道教では、モモは仙人の食べ物とされ、不老長寿や魔よけの力があると信じられていた。ただの果物ではない“仙果”だった▼それが日本にも広まったのか。邪馬台国畿内説でその本拠地とされる奈良県・纏向（まきむく）遺跡では、2010年にモモの種2765個が出土。女王卑弥呼が人民統治に用いたという「鬼道」と道教の関わりもからめて大きな話題になった▼その数をもはるかに上回る上東遺跡のモモ。これまで控えめに「何らかのまつりが行われた」（同センター）とされているが、こちらも吉備の王墓・楯築（たてつき）遺跡のお膝元である。どう解釈できるのだろうか▼モモは当時の思想や社会の謎を解くかぎを握っているように思える。古代の「モモの国」から未来へ託された大いなる遺産だ。（2016年8月18日 山陽新聞 滴一滴）

4. 桃核祭祀は卑弥呼の鬼道か

岡山の場合、桃核が出土する遺構は、溝や河道、井戸が多く、水に関係する祭りに桃が使われた可能性が高い。最近までの調査で、特殊器台も水に関わる祭りで使われた可能性があることがわかったので、特殊器台と桃核祭祀は卑弥呼の鬼道の中核を占めるのではないかと考える。

古代の桃は薬用が中心であったらしいが、今でも桃核（桃仁）は、血行促進作用があり、婦人病の漢方薬だ。平安時代の『延喜式』巻第37典薬寮には、諸国から都に献上された薬の名前や量が国別に記されており、その中に「桃仁」が含まれている。

都へ納めた薬（現岡山県関係）『延喜式』巻第37典薬寮から

納めた薬種類数	桃仁の量	
美作国	41	7升
備前国	40	6升
備中国	42	1斗

古代中国では浙江省・紹興から出土の後漢が增強に西王母と西王母にかしづく仙女が桃を捧げた画像がある。西王母の宮殿には三千年に一度実をつける桃の樹があり、結局桃は三千年の永遠の生命を象徴するものだった。だから桃は邪気をはらい、不老不死や長寿の食べ物と考えられたのだろう。こうした桃の威力については、伊耶那岐命が桃の実三つを投げて伊耶那美命の追手を撃退したという話として、奈良時代編纂の『古事記』にも出てくる。

岡山各地の桃核出土地点では、まつりや儀式を想像させる特別な土器や木製品、獣骨などが同時に出土している。上東遺跡では、鹿、猪、犬の骨が大量に出ている。纏向の土坑出土の桃核も、祭祀用土器木製の剣、漆塗りの弓、獣骨などと共に出ている。

上東遺跡の波止場状遺構はRSKバラ園(岡山市)前の道路建設のための発掘調査で発見され、そこから桃核が大量に発見されていた。獣骨は朴骨であり、出港時に航海安全の占いに使ったのではないかと。

(写真3 復元上東遺跡波止場状遺構⇒)

波止場状遺構というのは、壱岐の原の辻遺跡だけが存在し、その二例目ということで、大量の土器だけに目が向いたのだろう。上東遺跡の位置は特殊器台祭祀、弧帯文祭祀で有名な、弥生後期最大の墳丘墓、楯築遺跡から直下の位置にあり、王莽の新しい貨幣である貸泉も1枚見つかるなど、吉備の王権の一大貿易港で行われた出航時の祭祀には、毎回土器に盛った様々なもの



が供えられたのだろう。そしてその祭祀の中心に桃核があったはずである。

桃核の出土状況・分布など等詳細は一切明らかにされていないものの、波止場の大きさは長さ4.5m、幅5～1.4m という範囲であり、ここから9608個の桃核が出てきたのである。土器などは波止場状遺構の周囲の水中に大量に投棄されていたのだから、桃核も当然その周囲に混在していたのだろう。纏向遺跡での土坑からの出土とは趣も異なるが、おそらくは上東では一度というわけではなく、何十回かに分けて投棄されたのではないか。つまり桃核を使った出航祭祀は数十回も行われたのではないか。

私の吉備邪馬台国東遷説の概略は以下である。(2014年「吉備邪馬台国東遷説」岡将男著・吉備人出版)

邪馬台国は楯築遺跡周辺の吉備全体を指し、卑弥呼は特殊器台と弧帯文に象徴される鬼道を行っていた。公孫氏滅亡の238年ころから邪馬台国は大和の狗奴国・吉備津彦に攻められ、247年には卑弥呼は魏政権から死を賜り、第一次講和となり、後継の男王が即位するも内戦状態になった。魏使張政は、邪馬台国と狗奴国の第二次講和として、卑弥呼の宗女・臺與を立て、邪馬台国祭祀と臺與を大和・狗奴国に移した。それで特殊器台祭祀が臺與を葬る箸墓古墳などに継承されたのである。

特殊器台のデザイン分析などのこの50年の成果として、大和朝廷成立と古墳時代成立には吉備の存在が不可欠だとされてきた。しかし吉備そのものが邪馬台国という説は少なく、吉備の存在は邪馬台国大和説の補説に使われることが多かった。

だが特殊器台祭祀が日本最古の巨大前方後円墳である箸墓の頂上で行われた事実は、吉備の大和への影響が単なる影響でなく、大和朝廷成立の中心条件だったことにほかならないと思う。私は、箸墓古墳は吉備邪馬台国と大和狗奴国が統一倭国となった記念碑だと思うのである。そして桃核祭祀の上東から纏向への移転も、それに付随するものだろう。なぜなら既に吉備では広範に行われていた桃核祭祀が、纏向に現れるからである。桃核祭祀ととも臺與は吉備から大和に移ったのである。そして箸墓に葬られたと日本書紀という倭迹々日百襲姫命(やまとととびももそひめのみこと)の名前には、「もも」がちゃんと付いているではないか。臺與=やまとととびももそひめ 倭迹々日百襲姫命「大和に入った桃の祭祀を世襲した姫」

百襲姫(モモソヒメ・臺與) ⇨ 桃太郎(モモタロウ・吉備津彦)

日本書紀では二人とも孝霊天皇の子で姉弟

だから纏向の桃核祭祀は、邪馬台国が大和に移った時の臺與のものだったと考えるので、宮殿様のものは臺與時代のものとする。臺與=倭迹々日百襲姫命(ヤマトトトビモモソヒメ)と僕の「吉備邪馬台国東遷説」では考えるのだが、倉敷・上東遺跡や奈良・纏向遺跡から出た桃核祭祀は、卑弥呼から臺與が継承したとすれば、モモソヒメは桃(百)の祭祀を世襲(襲)したという意味じゃないのか。日本書紀はモモソヒメが桃核祭祀を世襲したのを知っていて、その意味によって漢字を当てたのではないかと思う。吉備と桃の関係は俊樹として継承されており、これが桃太郎伝説に関係があるのかどうか、今後の課題としたい。

5. 弧帯文は龍をイメージしたか、水の神様・龍の子孫を名乗る卑弥呼

桃核が大量出土した上東遺跡のすぐ北の丘には楯築遺跡があり、そこに現在も後の特殊器台に採用された弧帯文というデザインを刻んだ「弧帯石」がある。弧帯石を見るとまるで包帯でぐるぐる巻きにされた人という感じだ。楯築遺跡にあった初期の特殊器台、円筒埴輪の原型では、弧帯文が採用されていないが、次の時代には採用され、大和の箸墓などにあつた特殊器台や特殊器台型埴輪にもデザインとして残る。

岡山大学考古学の出身で国立歴史民俗博物館名誉教授の春成秀爾さんは、平成23年3月2日の「卑弥呼は吉備出身か」という題の読売新聞文化欄コラムにおいて、弧帯文は人面龍身の文様であるとしている。弥生後期の1-2世紀には近畿と吉備を中心として静岡から鹿児島まで広く龍を描いたと思われる土器が存在する。龍神信仰が既に全国に広まっていたということだ。農業にとっては水を管理することは重要だし、また水の上を航海することも交易その他重要だった。龍はそういう力の象徴だったのであろう。

春成は「おなじ頃の吉備では、頭は人で、身体は龍という人面龍身を土器に描くことがあり、岡山市の足守川加茂A遺跡、総社市の横寺遺跡からも実例が出土している」とし、「龍も想像上の生き物である

から、人面龍身は龍と人が交わって生まれた神話上の産物である。人面龍身は吉備で見ついているだけであるから、吉備の人たちはそのような神話をもっていたのであろう。」と書く。したがって弧帯文石については「弧帯石は人面龍身をさらに複雑化して立体的に表現したもので、吉備の大首長の祖先は龍であったことを示す証として造ったのであろう」と評価している。

楯築の主は龍神の子孫だと称し、弧帯文を使った祭祀を執り行い、楯築からはじまる首長霊継承儀礼を行っていた。その子孫である吉備邪馬台国の卑弥呼の鬼道を構成する重要要素は、弧帯文、特殊器台、桃核祭祀、龍神信仰だったと思う。加茂A遺跡の8本柱の大型竪穴住居などは、交易船の宿泊・飲食施設だったのではないか。

私の吉備邪馬台国東遷説では、箸墓の主を臺與=倭迹々日百襲姫命と考えているが、日本書紀の崇神天皇の段にある箸墓の由来伝承では、倭迹々日百襲姫命は大物主であり、大物主は蛇に化けていたとある。蛇と龍は伝承では混同されることも多いが、臺與が吉備邪馬台国の龍神祭祀を継承しているとしたら、何か関係があるのかもしれない。

5. なぜ上東遺跡の桃核は無視され続けたか

一昨年の全国邪馬台国連絡協議会の設立総会では、纏向出土の桃核の放射性炭素14による年代測定を早くやるべきだと決議された。一方上東遺跡の桃核出土は一切知られていない。この場に私も居合わせたのだが、安本美典さんや文化庁の禰宜田さんなども、上東遺跡の桃核出土の話をご存知なかった。

その時点で纏向の発掘から約4年、NHKの放送から3年である。NHKの放送の「いまだかつて日本の遺跡から発掘されたことのない、異様なほどの数にのぼりました」は大誤報だったのであるが、それが現在まで修正されてはいない。

桃核出土の事実が軽視された原因の一つは岡山側の事情にもある。岡山の考古学会といえば、楯築遺跡を掘り、特殊器台と古墳発生の謎に迫った岡山大学の近藤義郎さんの存在が大きい。私の「吉備邪馬台国東遷説」も、近藤氏の研究がなければ書くことはできなかった。

しかし近藤義郎さんは良くも悪しくも功労者であって、岡山の考古学の世界では、神話などは考慮してはならない、という近藤さんの意に逆らう事はできなかっただろう。考古学の成果である楯築遺跡や特殊器台を全く別資料である魏志倭人伝にしか出ないの邪馬台国や卑弥呼と同時に議論することは、タブーになっていたのではないか。

楯築遺跡を弥生墳丘墓とし、古墳としなかったのは、定型的古墳という物差しで見た近藤さんの良心だとは思いますが、私は楯築遺跡から古墳時代が始まったと考えたほうが、余程わかりやすいのではないかと思います。吉備の諸遺跡を、近藤さんが亡くなって数年たつ今、別の目から見直す必要があるのではないか。

全国の考古学会も、上東遺跡の桃核出土の事実をまずは知り、各地の桃核出土も整理して、きちんと調査してほしいものだ。

6. 特殊器台出土は墳墓に限らず、集落や水辺の祭りにも

吉備発祥の特殊器台は、円筒型埴輪の元になったというのは、もはや考古学会の常識になり、特殊器台が宮山型以降大和の纏向遺跡に出ていることから、大和政権・前方後円墳体制の構築に、吉備が重要な位置にあったことも考古学界の常識となっている。

岡山県教育委員会で長く発掘に携わられている宇垣匡雅氏は、2015年2月の講演で、特殊器台の発掘例も126例にもなり、そろそろまとめてみたいと述べられた。特殊器台の発掘例は岡山の高橋護氏が向木見型特殊器台の存在を指摘されて以来50年。宇垣氏は従来の特殊器台の意味を

1. 弥生時代後期の吉備を代表する遺物
2. 吉備の政治的文化的まとまりを象徴
3. 埋葬に伴う首長霊継承の祭祀（共飲共食儀礼）に使われる特別な道具

の三点にまとめたが、注目すべきは特殊器台の出土は、埋葬施設・墳墓とは限らなくなってきたことだ。

2015年 特殊器台110遺跡 特殊器台型埴輪16遺跡 合計126遺跡
となっているが、特殊器台110遺跡のうち、
集落から出土29遺跡、河道10遺跡、包含層6遺跡、土壙5遺跡

と、埋葬・墳墓以外の遺跡からの出土が50遺跡と45%を超えており、従来の特殊器台の特徴とされてきた首長霊継承の祭祀のための土器とは言い切れなくなってきたという。

特殊器台・特殊壺は「水の神様」を祀るのにも使われたのではないかと類推できる例が9%もある。

考古学者の春成秀爾氏は、楯築遺跡の弧帯石に始まり、向木見型特殊器台に登場する弧帯文という文様は、水の神様である龍を象徴として創作され、卑弥呼は龍の子孫を名乗り、弧帯文を採用して大和に持ち込んだと考えた。当初は埋葬・墳墓に使われることの多かった特殊器台・弧帯文は、卑弥呼の先代である楯築の王の時代に創作され、卑弥呼の鬼道を構成するものとして吉備全域に広まり、集落や井戸、河道で使われたのではないか。私は卑弥呼の鬼道を継承した臺輿が、特殊器台・弧帯文をヤマトに持ち込んだと考える。

宇垣氏が現在考える特殊器台の意味は、1－3に追加して

4. 水の祭り→神まつりの道具

を上げるが、多様な使い方をされていたという。楯築などの墳墓であっても、葬送時に立て並べられた後片づけられ移動されている例が多い。楯築では使用後壊されていると考えられる。また長期間使われたのか、宮山古墳の宮山型特殊器台の様に土器棺に再利用されている例もある。また特殊器台は特殊壺とセットで使うとは限らず、特殊器台単独でも使われているようだ。宇垣氏は、わからないものが出てくると考古学界では何でも「神頼みの時代」としてマツリの道具とするが、現実はずっと多様だとするわけだ。私は桃核祭祀を含めて、卑弥呼の鬼道は多様で現実的で科学的であったではと思う。

7. 吉備線の愛称は桃太郎線、吉備特殊器台を出雲へ運ぼう

今までなんとなく岡山が発祥の地だと言われた桃太郎伝説。携帯電話のコマーシャルでもちょっとした話題になっているが、古代邪馬台国の時代から、岡山の桃は価値あるものだったことがわかった。おそらく吉備からやってきた桃核祭祀は、当時の大和の人々が吉備発祥だと認識していたのではないかと。私たち岡山は、吉備は、正々堂々、桃太郎伝説をわがまちの誇りとしようではないか。JR西日本岡山支社では今回、吉備線の愛称を桃太郎線とし、新幹線の車内放送でも桃太郎線と紹介されているし、岡山市も桃太郎を前面に押し出しているのは、当を得ているかもしれない。

私たち市民グループは、地域の歴史文化に根差した地域づくりを目指してまちづくりネットワークを構築してきた。その一環としてNPO法人公共の交通ラダを1995年に設立し、全国の路面電車や地方鉄道の存続支援を行うとともに、吉備線のLRT化を目指す運動を20年来続けてきた。我々の運動は全国に広まり、富山ライトレールや和歌山電鉄に結実した。

吉備線LRT化もようやく行政レベルで具体化してきたが、ここで吉備線の名前の由来になった吉備古代史を再発見するために「楯築サロン」を立ち上げた。既に3年前には吉備特殊器台復刻プロジェクトとして立坂型・向木見型・宮山型の復刻に成功している。

今年11月6日には楯築サロンとして楯築型特殊器台と出雲の西谷3号墓に運ばれた特殊器台を復刻して野焼きを行う予定だ。場所は上東遺跡に隣接するRSKバラ園を予定している。全国からも多くの来場をお待ちしている。RSKバラ園には村上進通さんの尽力で、大吉備津彦生誕の地とされる大和の黒田から黒田桃が移植されている。なお楯築と西谷では楽浪郡に多く存在した木槨木棺墓が採用されており、墳形は違うものの多くの共通点を持っている。来年あたりは焼きあがった西谷三号墓の復刻特殊器台を中国山地を超えて出雲まで運び込もうと、その輸送ルートの検討に入っている。

楯築サロンとラダでは、楯築から2kmほどしか離れていない造山古墳へ中庄駅・備中高松駅・総社駅からバス路線を走らせて来訪者への利便性を高め、楯築遺跡・造山古墳・上東遺跡周辺にミニ博物館をつくり、最終的には吉備路に岡山県立考古学博物館もしくは国立博物館を誘致しようとも企んでいる。

参考文献・資料

「歴史秘話ヒストリア」、「女王さま振り向いて! 最新研究! 邪馬台国卑弥呼のヒミツ」NHK 2011年10月26日放送

岡山県古代吉備文化財センターのホームページ

「吉備の国 桃 桃ものがたり断章」2015年一般社団法人岡山農山村地域研究所刊、村上進通
「卑弥呼は吉備出身か」平成23年3月2日の読売新聞文化欄コラム、春成秀爾
「邪馬台国とは何か、吉野ヶ里遺跡と纏向遺跡」新泉社2012年、石野博信討論集
「卑弥呼王朝の全貌」たま出版2012年、松重楊江、朝日新聞記事を引用
「古代史研究の最前線 邪馬台国」2015年洋泉社編集部編
2016年8月18日 山陽新聞 滴一滴
「吉備邪馬台国東遷説」吉備人出版2014年・岡將男著